

鉄道 近畿

和歌山電鐵株式会社

渡邊 寛人（常務取締役）

平成 19 年 3 月 6 日

「少子高齢化・人口減少時代に向けた取り組み
…日本一心豊かなローカル線を目指して」

和歌山電鐵株式会社
常務取締役 渡邊寛人

弊社が運行している貴志川線は、和歌山市と、その東部に広がる貴志川町(現在は紀の川市)の間 14.3km をトコトコと走る単線です。

典型的な地方都市和歌山を出発して、田園を抜け、小さな峠を越えて走る 2 両編成の電車が、毎日 13 の無人駅と 1 つの有人駅を結んで走っています。

この路線、もともとは大阪の大手私鉄「南海電鉄」さんが運行されていましたが、昨今の例に漏れず、利用者の減少から、「廃止」ということになりました。

「廃止」を「なんとか食い止めたい。」という思いの、住民の方や行政の方の努力で後継事業者を入札することになり、弊社が平成 18 年 4 月 1 日より運行することとなりました。

運行するにあたり、現状をみてみますと、少子高齢化の波は地方では特に高く、和歌山市の人口を見ると、

(単位:千人)

平成 8 年度	392
平成 9 年度	391
平成 10 年度	390
平成 11 年度	389
平成 12 年度	387
平成 13 年度	385
平成 14 年度	383
平成 15 年度	382
平成 16 年度	380
平成 17 年度	379

と、和歌山県最大の都市であり、県庁所在地であるにもかかわらず、この 10 年ずっと人口減少が続いています。

また、貴志川線沿線に高校 3 校と短大 1 校が有り、これらの生徒さんが、重要な利用者となっているのですが、少子化の傾向はここでも強く、その生徒数は、

(単位:人)

	向陽高校	和東高校	貴志高校	信愛短大	計
平成 8 年度	1,324	1,105	805	550	3,784

平成 9 年度	1,281	1,051	763	525	3,620
平成 10 年度	1,272	1,016	750	491	3,529
平成 11 年度	1,267	994	711	436	3,408
平成 12 年度	1,308	934	691	442	3,375
平成 13 年度	1,260	938	682	464	3,344
平成 14 年度	1,227	907	669	442	3,245
平成 15 年度	1,179	903	655	443	3,180
平成 16 年度	1,137	850	680	477	3,144
平成 17 年度	1,062	780	667	475	2,984

と減少が続き、10年前と比べると78.85%になってしまいます。

それらからわかるように、貴志川線利用者の数も、

(単位:千人)

	定期外	通勤定期	通学定期	計
平成 8 年度	1,002	926	811	2,739
平成 9 年度	959	938	691	2,588
平成 10 年度	897	801	640	2,338
平成 11 年度	852	833	686	2,371
平成 12 年度	803	837	722	2,362
平成 13 年度	771	805	698	2,274
平成 14 年度	732	693	567	1,992
平成 15 年度	693	674	618	1,985
平成 16 年度	662	642	622	1,926
平成 17 年度	636	631	655	1,922

と、ここ最近では200万人を割る年が続いていました。

10年前と比べると、70.17%となってしまいます。

また当社沿線においては、高度成長期に分譲された団地等があり、そこからの通勤人口が利用者の大きい部分を占めていたのですが、それらの人も退職時期を迎えられ、活気のあった利用駅も今ではさびしい状況です。

こうして周囲を見れば、取り巻く環境は厳しいものがありますが、運行するからには、なんとか安定した経営状態にして行きたいと考えました。

そこで、

少子化 少ない子供にお金と時間を掛けることができる。

高齢化 時間に余裕があり、生きがいを求めている。

と発想を転換してみました。

それらのことから、

少子化対策として、小さいお子様向けに

平成 18 年 5 月「母の日ギャラリー電車」

平成 18 年 8 月「第一回貴志川線まつり」

平成 18 年 12 月「サンタクロース電車」

平成 19 年 3 月「小学生電車内学習発表会」

を開催し、地元高校生達とは

平成 18 年 7 月「和歌山駅七夕飾り」

平成 18 年 11 月「岡崎駅ペンキ塗り大会」

平成 19 年 2 月「貴線祭」

等、彼等主体で楽しめるイベントを実施しました。

また高齢化対策として

平成 18 年 5 月「大池遊園駅の清掃」

平成 18 年 8 月「和歌山駅風鈴の設置」

平成 18 年 9 月「川柳電車」

平成 18 年 9 月「竹久夢二版画展」

平成 18 年 10 月「健康生きがづくり一座電車公演」

平成 18 年 12 月「貴志駅の清掃」

平成 18 年 12 月「手作り門松の駅設置」

平成 19 年 3 月「甘露寺前駅の清掃」

と、さまざまなイベントを行ってきました。

いずれも予想を上回る集客ができ、特に「サンタクロース電車」では、用意された 200 個のプレゼントに対して、1000 名を超えるお客様に来ていただきうれしい悲鳴があがりました。

また、高齢化対策で実施するイベントについては、弊社が実施する…というより、お客様に行っていただく、一緒に楽しむ…のような方向付けで実施してきました。

これにより、お客様のマイレール意識(?)もあがってきたように感じられます。

また、平行して、時刻表のポスティングやモビリティマネジメント、タクシーとのフィーダー会議の実施…等限られた条件の中でできることから実行に移してきました。

それと、利用者、地域の人々と同じ視線で問題を解決する為に、地域行政の方々、地元団体の方々、地元高校の校長先生、同生徒会長、同 PTA 会長、商工会の方々、有識者の方々と交えた「運営委員会」を毎月 1 回開催し、問題解決に智恵と汗を搾って参りました。

その結果、平成 18 年 4 月から平成 19 年 1 月の累計で、利用者数は対前年 111.6%と大幅な増加をみせており、最終予想利用人数も 210 万人を超えるものと考えております。

これは、我々の努力も少しはお客様に理解され、お客様の「よし、乗ってやろう。」というお気持ちに助けられた結果と考えております。

これからも当分の間、地方中小都市の人口減少、高齢化に歯止めがかかるとは考えにくい状況が続くと思われま

す。ただそれを甘受するのではなく、その中で、いかにお客様に必要とされる交通手段となるかが、地方で運行する私達の課題であろうと考えています。

少子化になれば「もっと遠方のお子様にも乗っていただこう。」「もっと何回も乗っていただこう。」と努力し、高齢化が進めば「もっとお年よりにやさしい鉄道になろう。」「お孫さんと乗りたい楽しい鉄道になろう。」と努力することで、地方中小規模の鉄道はまだまだやってゆける・・と信じて日夜業務に励んでいます。

この1年、民間企業として、当たり前のことをしていただだけでも、お客様は帰ってこられます。

今後も努力に努力を重ね、10年後、20年後に「昔の人は、良く貴志川線を残したね。先見の明があったもんだね。」といわれるように、頑張っていきたいと思えます。

和歌山で、明るく、楽しく、地域の方と一緒にがんばっている鉄道会社です。

和歌山へ来られたら、ぜひ私達の「いちご電車」に乗ってください。

私達の合言葉は

「日本一心豊かなローカル線になりたい！」です。

資料提供(順不同・敬称略)

和歌山県企画部計画局総合交通政策課

和歌山市企画部交通政策課

紀の川市企画部交通政策課

南海電気鉄道株式会社鉄道営業本部統括部